

2006年11月1日

記者各位

出光興産株式会社

千葉工場でSPS樹脂の生産を再開

～ニートレジン生産からコンパウンド販売までのグローバル供給体制確立～

当社（本社：東京都千代田区、社長：天坊 昭彦）は、自社独自開発の耐熱性エンジニアリングプラスチックであるシンジオタクチックポリスチレン（SPS）樹脂の本格生産を千葉工場にて再開いたしました。

既に確立した世界四極でのコンパウンド供給体制と併せ、SPS製品（商標：ザレック）のニートレジン生産から販売までのグローバル供給体制が整いました。

また、好調な需要の伸びを受け、設備増強の検討にも着手しました。

SPS樹脂は、当社が1985年に世界に先駆けて発明した材料です。メタロセン触媒を用いて、ポリスチレンをシンジオタクチック構造にすることで、耐熱性の高いエンジニアリングプラスチックとしての特性を付与することに成功し、1997年に当社千葉工場内に5000トン/年の商業プラントを建設し、供給を開始いたしました。

さらに、本技術に興味を持った米国の大手化学メーカー Dow Chemical（以下 Dow 社）に基本技術のライセンスを行い 共同で技術開発・市場開拓を進め、1999年に欧州において Dow 社がSPS製造プラントを建設、共同生産を行うことにしたため 弊社千葉工場のプラントは2000年に計画休止しました。

その後 Dow 社の事業撤退を受け、当社は事業をグローバルに展開することとし、千葉装置の再稼働準備に入るとともに、本年1月に北米、5月に欧州で、コンパウンド製造と販売体制を整え、国内とアジアを合せて世界四極での製造・販売体制を確立しました。

千葉装置再稼働については、好調な需要増を背景に顧客への安定供給体制を1日も早く確立するため当初の計画を約半年前倒しし、本年10月に運転を再開しました。

また、好調な需要の伸びを背景に、能力増強の検討も進めてまいります。

SPSは、耐熱性、電気特性、耐薬品性、耐スチーム性、軽量性などに特長があり、当社では、鉛フリーハンダ対応のコネクタなどの自動車電装部品、IH炊飯器・洗濯乾燥機・スチームオープンレンジなど加熱部のある家電部品、アンテナなどの電子部品に用途を拡大しております。

今後は、全世界で自動車部品や電気電子部品などの新規用途の開拓に注力し、SPSをグローバル商品として育成していきます。

< SPS装置の概要 >

- ・製造拠点 当社 千葉工場内
- ・生産能力 5000トン/年（ニートレジン）
- ・生産開始 2006年10月

以上

～ お問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報室 （加来） TEL：03 - 3213 - 3115
機能性樹脂部（佐藤） TEL：03 - 3213 - 9550

URL <http://www.idemitsu.co.jp>